

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 5月 18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800083
法人名	株式会社 みさき
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	鹿児島県出水市荘973-1 (電話) 0996-82-5511
自己評価作成日	H25・3・1

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慣れ親しんだ地域で地域の方々や入所者の方、スタッフと共に歩んでいきたいという思いからホーム名を「あゆみ」にしました。

入所者の方の思いを第一に考え、その人らしさを大切にしていきたいと思っています。日々の生活の中では、お一人おひとりに応じた支援を行い役割や楽しみを持って生活して頂けるよう努めています。その一つとして、畑作りにも取り組んでいます。また、入所後も家族とのつながりが途切れることがないように訪問しやすい環境を心がけ、一緒に支えて行く姿勢を大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○開設後1年余りのホームであり、出水市郊外の住宅地に位置し、近隣には同一法人のグループホームもある。日当たりの良い敷地は広く散策や日光浴にも適しており、静かでゆったりとした雰囲気が漂っている。また、リビングや廊下等の共用空間は天井も高く明るく開放的であり、落ち着いてくつろげるように工夫されている。

○かかりつけ医は本人や家族の希望する従来の医療機関であり、それぞれのかかりつけ医への通院もしくは訪問診療を適切に支援している。主治医とは体調管理表と診察記録できめ細かく情報交換し、受診経過は職員・家族と十分に情報共有しており家族や本人の安心につながっている。

○開設時には食事会に地域の方々をお招きし、ホームへの理解を深めて頂くよう努め、自治会にも加入して、徐々に地域の方々が草取りや菜園の手入れ等で来訪されると共に、日頃より散歩や日光浴の際にも挨拶や会話を交わし、積極的に地域に溶け込めるように取り組んでいる。

○管理者は、日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、職員とのコミュニケーションを密にするよう努めている。職員同士の連携も良好であり、日々の申し送りや業務の中、また、スタッフ会議等での意見交換は活発で、管理者と職員は連携して、業務改善や利用者の思いを大切にしたいより良いケアの実現に向けて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳と暮らしを第一に考え、スタッフ会議で話し合い作成した。玄関先に掲示し、理念を糧にケアが活かされているか振り返るようにしている。	法人の基本理念に加え、職員全員で協議・決定した関連施設と共有のホームの理念を掲げ、「利用者の思いを大切にしたいケア」の実現を目指して日々支援に取り組んでいる。朝夕の申し送りや月1回のスタッフ会議を通じて理念の意義を振り返り、理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会長には毎回運営推進委員会にも出席して頂いている。避難誘導の際にも協力を得られるようにしている。	開設時には食事会を開き、地域の方々に出席頂いている。自治会に加入して敬老会等の行事には家族や地域の方々の参加があり、ボランティアの踊りなどを利用者は楽しんでいる。また、高校生やヘルパー講座受講者等の職場体験・見学の受入や地域の方々が草取りや菜園の手入れ等で来訪されると共に、日頃より散歩や日光浴の際にも挨拶や会話を交わすなど交流の機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族や地域の方に認知症について正しく理解して頂くために、認知症サポーター養成講座を開催したり、介護職員資格取得者の施設見学の受け入れなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には自治会長、家族、介護保険課のかたの参加を得て、施設の状況報告を行い、意見交換や助言等頂き、サービス向上に活かしている。	会議は地域包括支援センターや市の職員・地域の自治会長・家族等の参加を得て定期的に開催されている。ホームの現況報告や行事・課題等について活発な意見交換が行われ、助言や提案を得て業務改善やサービス向上に役立てると共に、地域の方々に避難訓練への参加依頼等も行なっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者や業務に関する相談等を行い、指導や助言を頂いている。又、その都度情報をもらい、サービス向上に努めている。	市担当者には運営推進会議に参加頂くと共に、電話・訪問で利用者の状態等を具体的に伝えて助言・対応頂いたり、必要な情報交換や意見交換を行い、例えば記録様式についての工夫や会議時に気づいたことで指導して頂くなど連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針を作り、スタッフ会議でも話し合い、利用者の行動に対して妨げる事がないようにしている。利用者に危険が伴い、やむを得ない場合に関し、家族の同意を得、不快に感じる事がないよう配慮しながら行うようにしている。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会をスタッフ会議で実施すると共に、「身体拘束廃止の指針」も整備して職員の理解を深め、特に言葉による行動制限や気持ちの押さえつけがないように、日々確認し、その人らしい暮らしを支援するケアへの反映に努めている。職員は連携して見守りの強化に努め、近隣の地域の方々にも見守りや声かけして頂くよう働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市の職員を招き虐待について学ぶ機会を設けた。利用者の方に対して、常に敬意を持って接するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の職員を招き、権利擁護について勉強会を行なった。必要性があった時、活用出来るよう、これからも学ぶ機会を設け、支援に努めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項で説明し、不明な点がないか尋ねるようにしている。特に、医療連携や重度化、入院、退所に関しては十分に説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、意見や要望を聴いたり、面会に来られた際に個々に尋ね、希望に添えるよう日々努めている。玄関先に意見箱の設置。利用者にはコミュニケーションをとりながら聴くようにし、反映できるよう努めている	利用者の意見や思いは、暮らしの中での会話や表情・所作から把握に努め、ご家族とは来訪時や敬老会時の家族会の際に、話しやすい雰囲気作りを工夫して多くの意見を頂いている。職員は申し送りノートやケース記録で情報を共有し、必要時は対応を話し合い、速やかに本人・家族に報告しケアへの反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフの意見を聴き、スタッフ会議で話し合い、全員が納得した上で業務出来るようにしている。必要に応じて個人面談なども行い、意見や要望等聴くようにしている。	管理者は、日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、職員とのコミュニケーションを密にするよう努めている。日々の申し送りや業務の中、また、スタッフ会議や必要に応じての個別面談等で職員からの意見や提案を聞き取ると共に、職員と連携して業務改善やケアへの反映に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心が持てるような環境整備や資格取得に向けての支援を行いながら、実績が給与や賞与に反映出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を把握した上でスタッフ全員が法人外の研修を受ける機会を作り、学んだ事を研修記録にまとめてもらい、スタッフ会議を利用し発表する場を設けている。法人内の研修や外部から招いての研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学や研修の受け入れなど積極的に行っている。情報交換等も行いサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談で心身の状態や本人の思いの把握に努め、それを“事前情報”の用紙に記入し全職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面談でご家族の求めていること、不安に思われていることなどを伺い、事業所としてどのようなことができるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な利用者には可能な限り柔軟な対応を心がけている。ご家族や本人の不安が強い場合は必要なサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはしてもらい、介護しているという上からの目線ではなく暮らしを共にする者同士としての関係作りをしている。手伝ってもらった時は必ずお礼の言葉を添えるようしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時等を利用しご家族との情報交換を行うようにしており、共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の付き添いで、定期的に自宅に帰ったり墓まいりに行かれる利用者がいる。またご家族をはじめ知人、友人等の面会があった時は自室でゆっくり過ごせるよう配慮している。	家族や利用者の知人・友人の来訪は多く、利用者とゆったりと過ごせるように支援すると共に、電話や手紙の取次ぎ等の支援も行なっている。本人が希望する買い物やドライブ等の同行にも努め、ご家族との食事や温泉・帰宅等にも可能な限り配慮して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し状況に応じて座る位置などを調整している。レクレーション等を通じ利用者同士が円滑な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族からの相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始前の面談時や日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。	日常会話や利用者の所作観察から思いや意向をくみ取るよう努力し、ご家族の来訪時や電話・通院時の家族との対話でも把握に努めている。収集した情報は申し送りノートやケース記録で共有し、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の面談時や利用開始後も、ご家族や面会に来られた方から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや心身の状態の把握に努め、できることが継続できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族と話し合い、意見や要望等反映した介護計画を作るようにしている。モニタリングは3カ月に1回、職員会議の中で行い職員全員で意見交換している。	遠方のご家族からは電話や郵便で意向や希望を聞き取っているが、原則として本人、家族も参加した担当者会議で話し合いながら計画を作成している。主治医の意見は受診時の情報交換で確認して関係者・職員の意見も反映させている。変化する利用者・家族の意向や状況も日頃から把握に努め、それらを基に計画の見直し修正が適切に行なわれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録、食事・水分・排泄・バイタルは体調管理表に記載し全職員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族共に入所に対する不安が強い時は、入居前でも気軽に遊びにきて頂くよう声をかけている。一人一人のニーズにできるだけ対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に働きかけ敬老会ではボランティアで踊りを披露して頂いた。日光浴や散歩など屋外での活動中に近所の方と会話する機会があり、とても喜ばれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医になっている。基本的には家族同伴の受診となっているが、困難な時は職員が付き添っている。“受診記録”のシートを使用し医療機関との連携に努めている。	利用前の受診経過の把握に基づき、ご家族と連携して本人や家族の希望するかかりつけ医への通院もしくは訪問診療を支援している。受診時は体調管理表と診察記録で医師に状況をお伝えし、受診結果は家族からも情報を得て診察記録に残し職員は共有している。かかりつけ医とは緊急時にも適切な医療が受けられるよう情報交換に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し24時間365日連絡できる体制を整えている。看護師と医療機関との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会やご家族からの電話等で本人の状況を把握するよう努め、病院関係者と連携をとりながら早期に退院できるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に“重度化した場合における対応に関わる指針”を説明し、事業所にできることできないことを明確にしている。	重度化や終末期のケアについては、ホームで対応できる方法について方針を文書に定め、本人やご家族に十分説明して同意を得ている。医師や看護師を含む職員との連携を密にして、本人や家族と十分に話し合い、ホームで行える支援を実施できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急法の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。緊急連絡網の中に自治会長さんを入れてもらいたいという時に地元の消防団の協力が得られるような体制作りを行っている。	開設して1年余りであるが、消防署・消火設備の業者の協力を得て年2回消火・通報及び避難訓練を行なっている。その際に消防署からは地震時の対応等についても講話が行なわれている。次回は消防署及び自治会長に依頼して訓練に地域住民の参加も予定している。スプリンクラー・自動通報装置等の設置や食料・飲料水の備蓄も問題はない状況である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し丁寧な声かけや対応を心がけている。不適切な声かけや対応があった時は職員会議で話し合うようにしている。トイレは各居室にあり、さりげなく誘導するよう心掛けている	日々の暮らしの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な声かけや対応を心掛けている。高齢者の権利擁護や個人情報保護等に関する勉強会もスタッフ会議で実施すると共に、プライバシー保護方針も整備して職員の理解を深めるように努め、個人記録等の取扱いにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、無理強いはいしないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など施設の1日の流れはあるが、できるだけ利用者のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	職員が準備することが多いが、基本的に本人の気に入った服を着てもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ（もやしのヒゲ取り、いりこの腹ワタ取り等）や食後の茶碗洗い、お盆拭きなど職員と一緒にするよう努めている。	基本の献立に頂いた旬の野菜や利用者の好みを反映させて利用者の楽しみにつなげている。野菜の収穫や下ごしらえ、食卓の準備・後片付けなど、個々に応じた役割が担えるようにも支援している。弁当持参の花見や季節の行事食・敬老会や誕生会等の特別食・手作りおやつや果物の提供・庭でのお茶会など様々な工夫も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理表にて毎日の食事量・水分量を把握している。食事量の少ない方は主治医に相談し、栄養補助食品等の検討をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて見守りや介助を行い、毎食後口腔ケアをしている。夕食後は義歯を預かり、消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方には排泄チェック表を使用し早めの誘導を心がけている。自宅では一日中リハビリパンツ使用の方が、入所後下着と尿とりパットに移行できた方もいる。	利用者の見守りや必要に応じて排泄チェック表を活用して個々のリズムを把握し、誘導や声かけの工夫で排泄の自立に向けた支援を行なっている。居室には車いす対応のトイレも設置されており、職員は連携して羞恥心や不安の軽減も含めて、個人の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとってもらうよう声かけしたり、屋内外の散歩や運動を取り入れるようにしている。便秘対策として入所前からヨーグルトを食べていた方は、入所後も食べれるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回午前中の中入浴が基本になっているが状況によりシャワー浴や午後から入浴を行うことがある。拒否がある時は人やタイミングを変え、気持ちよく入ってもらえるよう工夫している。	簡易の機械浴の装置も整備され、健康状態に配慮しながら清拭や足浴への変更も含め、基本的には週3回入浴可能である。入浴を拒否される場合には、時間帯や順番・職員の交替・声かけの工夫等で入浴が楽しめるように支援している。夜間の更衣時には必ず清拭も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など日中も適度な休息がとれるよう配慮している。夜間は室温や照明にも配慮し、快適に休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	“緊急時対応”のファイルに一人一人の薬の説明書を入れ職員がいつでも見ることができるようにしている。副作用等変化がみられた時は看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味を持たれることや好まれる活動ができるよう場面作りを行っている。塗り絵が好きな方や縫い物が気分転換になる方、職員と将棋を楽しまれる方などがいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人のその日の希望に沿っては難しいが、天気の良い日は屋外でお茶を飲んだり散歩を行っている。施設の行事で初詣や鶴見学、お花見などに出かけることもある。	日当たりの良い庭はベンチも置かれ自由に散策ができ、天気の良い日は日光浴やお茶会が行なわれている。利用者の健康状態や天候を見ながら、時にはご家族の協力も得て、散歩や買い物・ドライブ・一時帰宅などを始め、車いすも活用しながら初詣・季節の花見・つるやバラ園の見物等に出かけ、可能な限り外出が楽しみになるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、お金を持っておられる方がいる。お金を使う場面はないが持っていることで安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	「電話をしてほしい」等の希望時は電話が使えるよう支援し、家族からの電話の取り次ぎもしている。お孫さんからのハガキを楽しみにされている利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾りつけを工夫し、手作りのカレンダーや作品（塗り絵等）も壁面に飾るようにしている。エアコンや加湿機能を備えた空気清浄器を配置し快適に過ごせるよう心がけている。	廊下・リビングにかけてのスペースは、天井も高く明るく開放的であり、大き目のソファや季節の手作り品・行事の写真等も配置され、落ち着いてくつろげるように工夫されている。また、空調には細かい配慮が感じられ、利用者にとって不快に感じる音や臭いもなく気持ちよく過ごすことができる。敷地内は自由に散策ができ、テラスにはベンチも置かれ、季節を感じながら日光浴もできるすばらしい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が一望できる大窓の所の椅子で日なたぼっこをする人や気の合う人同士でソファに座りテレビを見られる方など思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたものや写真などを持ってきてもらうようお願いしており、居心地の良い空間作りに努めている。	居室は、畳の部屋も含めて車いす対応のトイレのほか、ベッドやエアコン・クローゼットが準備されている。本人や家族の希望に沿って、これまでに使い慣れた寝具や家具・身の回りの日用品等を自由に持ち込んで頂き、本人が落ち着いて過ごせる環境になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力や状態に応じて家具やベッドの位置を変えたりアコーディオンカーテンを外すなど安全面に配慮しつつ、自立に向け支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳と暮らしを第一に考え、スタッフ会議で話し合い作成した。玄関先に掲示し、理念を糧にケアが活かされているか振り返るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会長には毎回運営推進委員会議にも出席して頂いている。避難誘導の際にも協力を得られるようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族や地域の方に認知症について正しく理解して頂くために、認知症サポーター養成講座を開催したり、介護職員資格取得者の施設見学の受け入れなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には自治会長、家族、介護保険課のかたの参加を得て、施設の状況報告を行い、意見交換や助言等頂き、サービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者や業務に関する相談等を行い、指導や助言を頂いている。又、その都度情報をもらい、サービス向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針を作り、スタッフ会議でも話し合い、利用者の行動に対して妨げる事がないようにしている。利用者に危険が伴い、やむを得ない場合に関し、家族の同意を得、不快に感じる事がないよう配慮しながら行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の職員を招き虐待について学ぶ機会を設けた。利用者の方に対して、常に敬意を持って接するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の職員を招き、権利擁護について勉強会を行なった。必要性があった時、活用出来るよう、これからも学ぶ機会を設け、支援に努めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項で説明し、不明な点がないか尋ねるようにしている。特に、医療連携や重度化、入院、退所に関しては十分に説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、意見や要望を聴いたり、面会に来られた際に個々に尋ね、希望に添えるよう日々努めている。玄関先に意見箱の設置。利用者にはコミュニケーションをとりながら聴くようにし、反映できるよう努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフの意見を聴き、スタッフ会議で話し合い、全員が納得した上で業務出来るようにしている。必要に応じて個人面談なども行い、意見や要望等聴くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心が持てるような環境整備や資格取得に向けての支援を行いながら、実績が給与や賞与に反映出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を把握した上でスタッフ全員が法人外の研修を受ける機会を作り、学んだ事を研修記録にまとめてもらい、スタッフ会議を利用し発表する場を設けている。法人内の研修や外部から招いての研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学や研修の受け入れなど積極的に行っている。情報交換等も行いサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者の要望や訴えに耳を傾け、安心して頂けるようスタッフ全員で対応するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族から情報を得るように働きかけ、わからないことや疑問に思ったことなど聞きながら、関係を深めていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の思い、悩み等聴き対策に向け、サービス内容を明確にし、安心してもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は行ってもらい、出来ないところを介助している。その際、プライバシーに考慮し、利用者の意図を尊重しながら行うよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や電話で本人の様子伝え、問題点等があれば共に考え支え合っていくよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人、友人の方が来訪時には、自室でゆっくり話してもらうよう配慮している。馴染みの場所には家族が協力してくれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に声掛けやレクリエーション、行事などの参加を求め、利用者同士の交流がもてるようにしている。気の合う同士か会話しやすい環境作りにも心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも御見舞やその後の様子を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向は必ず聴き、困難な方には家族に尋ね、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、本人の家族より、生活歴や馴染み、生活環境等を聴き、無理なくこれからの生活につなげられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行なった上で行動や表情からも状況を把握し、その方のリズムに合わせて過ごしてもらえるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言動や行動、心身の状態から課題とケアについてスタッフで話し合い、本人、家族の意向を聴き、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日誌やケース記録に記載し、対応、結果等については申し送りノートを使い全員が共有しながら実践出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申請書の手続きや臨時的な病院受診など家族に代わりおこなっている。又、外出の機会が少ない方に対して買い物やドライブに御連れするよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇の草取りや花植えをして下さったり、取れた野菜を持ってきて下さったりしながら、ご近所の方がいつも気にかけて、見守って下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方も見る事が出来る受診記録を作成し、医療機関側との連携や状況などが一目でわかるよう努め、協力し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	観察点の疑問や普段の様子、状態の違いを感じた時には、看護職員に相談し、必要に応じて、主治医の指示や受診を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会や家族からの電話等で本人の状況を把握するよう努め、医療関係者と連携をとりながら早期に退院できるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に”重度化した場合における対応に関する指針”を説明し、事業所で出来る事、出来ないことを明確にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急法のけんしゅうを実施し、全員が対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。緊急連絡網の中に自治会長も入ってもらい、いざという時に地元の消防団の協力が得られるよう体制作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の会話の中でも敬語を使い、利用者に合った口調や言葉かけを心がけながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにも工夫し、本人が思いや訴えを表現しやすいような問いかけをし、自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決まっているが、利用者一人ひとりのペースで過ごしてもらえような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝、ブラッシングやひげそりなど行ってもらうような声かけをしたり、着たい服を選んでもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえやいりこのワタ取りをしてもらったり、好みの物や食べたいもの等の話を聞いたりしている。食後、テーブルやお盆拭きもして下さる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、その人に合った量や食べやすい形態にし提供している。水分量は毎日記録し、必要量確保できているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声掛けし、仕上げ磨きや介助など一人ひとりに応じた対応を行い、常時口腔ない清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その都度声かけを促したり、排泄パターンを把握し、時間ごとの誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適当な運動や水分を多めに摂って頂くよう心がけているが、内服薬にての対応となりがちである。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めてあるが、入浴拒否の方には、声掛けのタイミングや仕方など工夫し、個々に応じた支援を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度に配慮し、安眠できる環境作りに努めたり、個別に声かけを行ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ファイルや服薬時の薬袋を作成し、服薬状況や状態の変化など、現状把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや散歩、日光浴等、随時心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	初詣、鶴見学、バラ園見学などに出かけたり、日曜日は毎週、買い物に職員と出かけている。本人の希望で家族と近くの温泉に行かれる方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の恐れもあり、手元に持っている方は少ないが、週一回の買い物や家族と外出の際、必要な物や好みの物を買って来られたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族への連絡を希望される時はスタッフが家族への連絡をとり、本人の思いを伝え、話してもらうこともあるが、来訪して頂く方が多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは各居室にあり、他人を気にすることなく排泄ができ、ゆったりとした共用空間で室温、湿度、音、光等にも配慮している。洗面台には季節の花を飾り、その月に応じた手作りカレンダーを作成し楽しんでもらえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時には居室で過ごしてもらったり、テーブル席やソファなど思い思いの場所で過ごしてもらえるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用して布団や馴染みの品など持ってきてもらったり、机、椅子、タンスなどで本人が居心地よく過ごせるような空間作りを働きかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	私物には名前を記入し、洗濯物を畳みながら自分の物を区別出来るようにしている。又、各居室入口には名前プレートを貼り、居室確認が一目でわかるように行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない